

寝屋川市舗装長寿命化修繕計画

寝屋川市まち建設部道路交通課

目次

1	背景・目的		
1-1	背景・計画策定の目的	-----	P1
1-2	本計画の位置付け	-----	P1
1-3	対象施設	-----	P1
2	市道の現況		
2-1	舗装の状態等	-----	P2
3	年次計画		
3-1	計画期間	-----	P3
3-2	対策費用	-----	P3
3-3	優先順位の考え方	-----	P4
3-4	対策内容と実施時期	-----	P4

1. 背景・目的

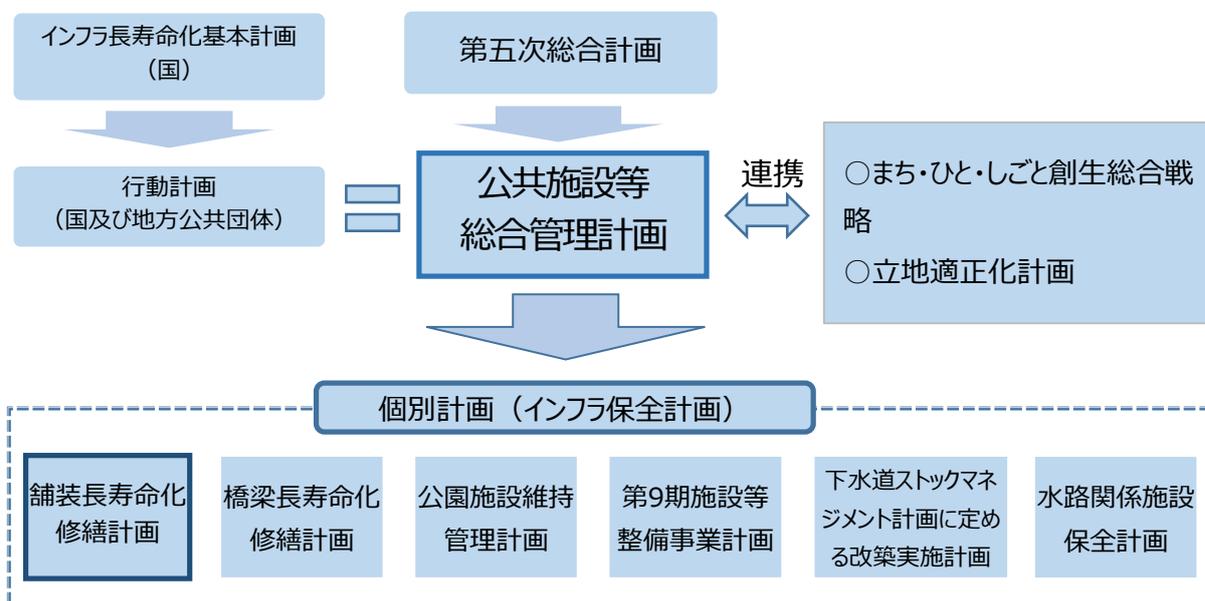
1-1 背景・計画策定の目的

本市では、高度経済成長期に集中的に整備されたインフラ施設が、建設から50年以上経過しており、老朽化が進んでいる状況にあります。また、平成24年12月に発生した中央自動車道笹子トンネル天井落下事故を契機に、インフラ施設の点検および維持管理の重要性が再認識されています。

国は「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月）、「国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）」(平成26年5月)を策定し、メンテナンスサイクルの構築に向けた取り組みを進めています。また、総務省は、平成26年 4月に地方公共団体に対し公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するため、速やかに「公共施設等総合管理計画」の策定に取り組むよう要請しています。市はこれを受け「寝屋川市第5次総合計画」の主旨を踏まえ、公共施設等の最適な配置を実現するため、「寝屋川市公共施設等総合管理計画」を策定しこの計画を踏まえ、市民の安全安心を確保し、市が管理する認定路線について、中長期的な維持管理コスト縮減や予算の平準化等これまでの対症療法型の修繕から予防保全型の修繕への転換を図るべく「寝屋川市舗装長寿命化修繕計画」を策定するものです。

1-2 本計画の位置付け

寝屋川市公共施設等総合管理計画の下位計画のうち、道路（舗装）を対象とした個別施設計画になります。



1-3 対象施設

市が管理する認定道路約315kmを対象とします。（平成30年4月1日時点）

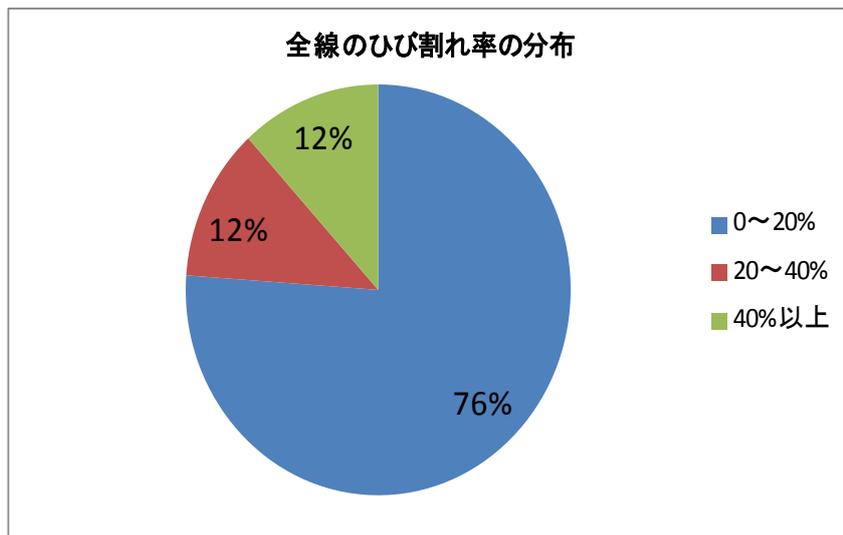
管理道路の状況

道路種別	路線数	実延長 (km)
一級幹線	38路線	18km
二級幹線	43路線	21km
その他	1955路線	276km
合計	2036路線	315km

2. 市道の現況

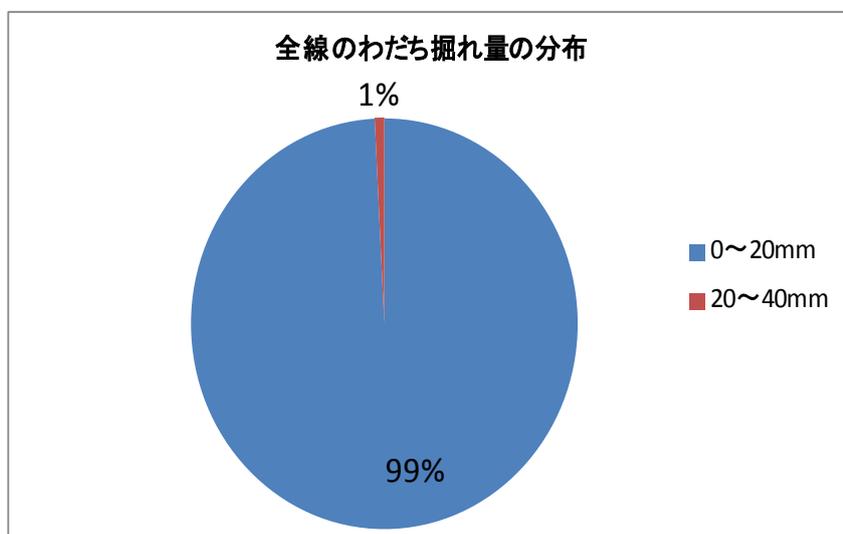
2-1 舗装の状態：ひび割れ率

市道の点検は、平成25年度時点の認定道路のうち、主な幹線道路の54路線を対象に路面性状調査を実施し、点検結果の概要を下図に示しております。その結果、現状の主な損傷はひび割れであり、総点検実施要領における「劣化小」にあたるひび割れ率：0～20%は調査対象全体のうち76%を占める。また、「劣化中」にあたる20～40%は12%、「劣化大」にあたる40%以上は12%と劣化が進行している箇所が全体の24%である。



2-2 舗装の状態：わだち掘れ量

総点検実施要領における「劣化：小」にあたるわだち掘れ量：0～20mmは調査範囲全体のうち99%を占め、わだち掘れ量の箇所はほとんどない。



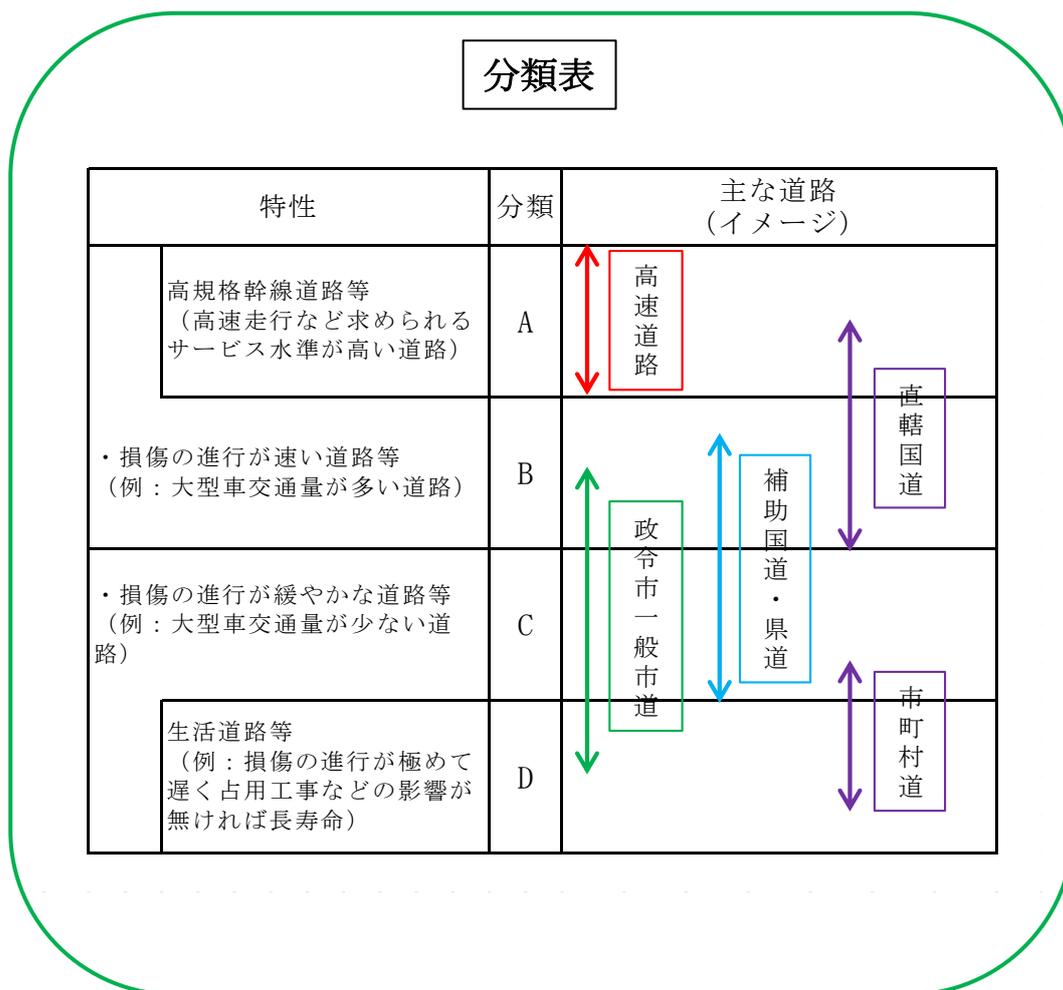
3. 舗装修繕年次計画

3-1 計画期間

本計画の期間は、平成31年度（2019年）から平成40年度（2028年）までの10年間とする。

3-2 対策費用

計画的に補修を実施する分類B・C（下表：分類表）の路線について、点検結果を基に舗装の修繕候補箇所を選定し、計画期間内における修繕の概算費用を算出した結果、10年間で約11.0億円の費用が必要となる見込みです。（表-1参照）



3-3 優先順位の考え方

舗装修繕の優先順位は、道路利用者の安全及び利便性確保の観点から、下表に示す舗装の損傷状況や道路の重要度を考慮した優先度評価より決定します。

舗装修繕の優先度評価項目

対策の緊急度（損傷状況の評価）	道路の重要度（道路特性の評価）
・ ひび割れ率	・ 道路の幅員 ・ 道路のネットワーク性 ・ バス路線 ・ 緊急輸送道路 ・ 通学路の運行経路 ・ 主要な公共施設へのアクセス性

3-4 対策内容と実施時期

上記の優先順位の考え方に基づき、修繕候補個所の優先度評価を行い、作成した年次計画（P5：表-1）に示します。

表-1 年次計画

補修予定 年次	路線		対策方法	総延長 (m)	補修費用 (千円)	備考
	分類	路線数				
H31 2019年	分類C	4	全層打換え	1,500	139,000	
	分類D	6				
H32 2020年	分類B	2	全層打換え	1,550	139,000	
	分類C	8				
H33 2021年	分類C	7	全層打換え	1,600	139,000	
	分類D	3				
H34 2022年	分類C	6	全層打換え	1,650	139,000	
	分類D	4				
H35 2023年	分類C	9	全層打換え	1,115	89,000	
	分類D	1				
H36 2024年	分類C	7	全層打換え	1,200	96,000	
	分類D	3				
H37 2025年	分類C	6	全層打換え	1,040	83,000	
	分類D	4				
H38 2026年	分類B	1	全層打換え	1,065	85,000	
	分類C	4				
	分類D	5				
H39 2027年	分類C	8	全層打換え	1,200	96,000	
	分類D	2				
H40 2028年	分類B	8	全層打換え	1,175	94,000	
合計	-	98	-	13,095	1,099,000	